

一羊会だより

発行
 社会福祉法人一羊会
 事務局 〒663-8241
 西宮市津門大塚町1-47
 電話 (0798) 31-1760
 FAX (0798) 31-1763



今号の表紙写真に写るのは、すずかけ作業所に所属する中山薫さんと職員の秋山裕理さん。すずかけ作業所で長年行われている『割りピン』と呼ばれる内職作業をしている一コマです。今夏に行った一羊会採用サイトのリニューアルの為に、秋山さんが現場で働く姿を撮影しました。一緒に割りピン作業を行っていた中山さんに「秋山さんを笑わせてもらえますか」とお願いしたところ、中山さんは「分かった」と言って、即座にダジャレを言いました。そのテンポの良さも相まって秋山さんが爆笑した瞬間を収めた一枚です。中山さん、その節はありがとうございました。一羊会ホームページ内にある採用サイトでは、新たに秋山裕理さん（すずかけ作業所職員）と野久尾優希さん（すずかけ第2作業所職員）のインタビューが掲載されています。是非ご覧ください。

特集

- 新理事・新監事のご挨拶 3
- あとりえずずかけ新聞
『あとりえずずかけ雑貨展』報告 4
- 『Boleh』すずかけイチバ上甲子園 12



一羊会ホームページ
へはこちらから

新たなスタートに向けて



理事長
三浦 昇

いつも一羊会の取り組みを見守りいただきありがとうございます。皆様にはいいご報告ができないまま時間が経過して2023年度を迎えました。その後、一羊会も役員改選の時期となり、私は再任され、別表にありますように役員体制を一部変更いたしました。一羊会の現状を踏まえ、新しく入っていただいた役員の皆さんの力もお借りしながら、一羊会の再スタートの年度として課題解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。

新型コロナの位置づけも2類から5類へと移行し、急変の不安はありながらも社会的動向は活性化の動きを呈しています。一羊会としてもこの機運に少しずつ乗って前進したいと考えています。

話はゴロっと変わりますが、皆さんご存知のように一羊会ホームページでは事業所の取り組みやイベント等々の紹介を、動画も含めてビジュアルに伝えてくれています。みんなの笑顔にあふれた表情を覗いているだけで楽しく、気持ちが和らぎます。又Facebookのページも掲載しているのでフォローしていただければありがたいです。まだの方は是非ご覧下さり、引き続きご支援ご協力いただければ幸いです。

今後共よろしく願いいたします。



副理事長
市原 博

6月開催の理事会において副理事長に再任されました市原です。

当会は「一羊会は誰のためにあるのか」の理念のもと、障がいのある人たちの願いやおもいに沿って新しい事業等を展開してきた歴史がある法人だと思っておりますが、近年はコロナ感染症もあり、収支の悪化や職員不足により停滞気味になっています。

今年4月には、一羊会が将来に向けて目指す法人の姿を実現するためのマスタープラン（3か年計画）を策定し、「安心と笑顔を増やす」というビジョンを打ち出しました。現状の事業の拡充、必要とされる新事業の策定等々、職員においては処遇改善等によりやりがいや満足度を上げ、障がいのある方も職員もみんなが安心と笑顔が増えることを目指し、日々改善に向けて会議を重ねております。職員の皆様には、人手不足の中、一人一人が精一杯頑張っていたいただきありがとうございます。今のこの大変な時期をみんなで乗り越えていきましょう。また、保護者の皆様、一羊会を応援して下さいる皆様には、いろいろな思いやご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

これからも一羊会をよろしく願いいたします。

この度、任期満了に伴う一羊会役員（理事・監事）の改選がありました。新たな理事に、武庫川女子大学教授の半羽利美佳氏、監事に税理士の三宅由佳氏と社会福祉法人福成会の柏原敏昭氏が選任されました。理事長は引き続き三浦が再任されました。

これまで担っていただいた山崎玲輔理事、谷寿夫監事、永岡稔監事、岡本征監事、皆様ありがとうございました。また、再任いただいた役員の皆様、新たに就任いただいた役員の皆様よりよろしくお願いいたします。

社会福祉法人一羊会 役員名簿

役名	氏名	経歴・現職
理事長	三浦 昇	(社福)一羊会 理事長
副理事長	市原 博	(社福)一羊会 副理事長 元 西宮市社会福祉事業団 事務局長
理事	本田 洋子	(一社)西宮市手をつなぐ育成会 会長
	森田 順	会社顧問 元 西宮市都市局長
	半羽 利美佳	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部社会福祉学科 教授
	古川 勝	(社福)一羊会 部長
	山岡 賢治	一羊園管理者
監事	三宅 由佳	三宅由佳税理士事務所 税理士
	柏原 敏昭	(社福)福成会 地域生活支援部長

任期/自 2023年6月19日 至 2025年度定時評議員会終了時

新任理事・監事からのご挨拶



理事 半羽 利美佳

この度、理事を拝命いたしました武庫川女子大学の半羽と申します。

私は大学で国家資格である「社会福祉士」という福祉専門職の養成に携わっております。その養成課程における実習で、一羊会様には毎年多くの学生が実習生としてお世話になっております。そのご縁があり、今回、光栄にも理事就任のお声かけをいただきました。

私の専門は学校におけるソーシャルワーク実践で、今もスクールソーシャルワーカーとしての実践活動を続けております。その中で、障がいのある子どもたちとの出会いも多いのですが、その子どもたちの今と将来の豊かな生活のためにどのような働きかけが必要なのかを日々考えさせられています。

このような若輩者ではありますが、一羊会様の今後の発展に少しでもお役に立てるよう尽力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



監事 三宅 由佳

このたび監事に就任いたしました、税理士の三宅由佳でございます。

独立当初より社会福祉法人様とのご縁が多く、自分の専門性を活かした社会貢献（社会福祉経営支援、会計教育等）に積極的に取り組んで参りました。

私は、持続的経営は利用者様や職員の皆様、そのご家族のためだけではなく、地域社会の構成員としての役割を担うために不可欠なものと考えております。皆様と協力し、その時代のニーズに応えた福祉サービスが提供できているか、持続的経営を支える財務基盤を構築できているかを一緒に考えたいと思っております。

私も自分の役割を果たすために常にアンテナを張り、日々精進していきますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



監事 柏原 敏昭

このたび、監事という大命を拝命いたしました柏原です。

私は、(社福)福成会で就労系の事業や相談支援に携わり、現在はそれらに加えて共同生活援助（グループホーム）事業を含めた地域生活支援事業を統括しております。

(社福)一羊会は、私が所属する(社福)福成会よりもさらに多様な事業を展開され、専門的な取組なども熱心に取り組んでいるのが印象的です。また、製品パッケージやアート活動なども含め「オシャレ」な点や利用者とともに地域へ出かけた働きなどが特徴的と感じております。

そんな姿を見習い、勝手に親近感を覚えていた一羊会に、このような形で携わらせていただくことになり、大変感謝いたします。微力ながら、今後のますますの発展と理念の体現に寄与させていただくよう取り組んでまいります。

あとりえ すずかけ 新聞

第28便 2023. 8
撮影／編集：神田 浩平

今年も【あとりえすずかけ
雑貨展】が2023年7月13日
～7月18日の期間に開催さ
れました。期間中は暑い日
が続きましたが、多くのお客
さんが足を運んで下さり、特
に土曜日や祝日は大盛況の賑
わいとなりました。



13日～15日の3日間、元一羊会職員で現在は陶芸作家として活動している出水健太さんが、自作している器を会場で販売してくれました。出水さんが働いていたときにカノンを利用していた利用者さんやご家族の方も遊びにいらしてくれて、再会を喜んでいました。出水さんは来春からブラジルに渡り、現地の知的しょうがいのある人達に陶芸を教えるそうです。出水さん、ボンポヤージュ！



フライヤーの文字と絵を描いてくれた仁田葉月さん。お客さんから好評でした。

17日には富塚さんが来場してくれました。始めはコーヒーを飲みながら映像を観てまったりしていましたが、お客さんから富塚さんが手描きしたTシャツに何が描かれているのか尋ねられて解説したり、急遽入った手描きTシャツの注文に応じて即席の公開制作を行ったりと、途中からは大忙しの富塚さん。お客さんが見守る中、嬉しそうに絵を描いていました。



大好評だった新商品『手掛けるおかよいバッグ』。

丸尾和史さんが漢字やアルファベットを手描きした“おかよいバッグ”は、インスタで紹介した時点から注文が入るほどの人気で、期間中に完売しました。このバッグは着物の古布を一部使用していて、その部分の布は少し脆くなっています。商品に同封されている当て布用の布や白糸で刺し子をして、ご自身で“手を掛け”、楽しく大事に使ってくださいという思いを込めて作られました。



1. 組織管理

2022年度昇格・異動した6名の役職者は順調に力を発揮し、それぞれの事業所になくはない存在になっており組織の活性化に繋がっています。一方、役職者の休職・退職もあり兼務体制は解消されず、また人手不足から現場支援に入らざるをえない状況も続いており、管理業務に専念できないことで役職者の経営力や事業運営力の向上も思うように進まず、組織としての課題が継続しています。

次代の育成については、研修やOJT等により、サービス管理責任者や主任など責任ある職務への引き上げは進められています。その先に向かうために、人手不足解消や業務整理等の負担改善が課題となっています。

監事については期末監査以外に中間監査を実施頂き、御意見頂いています。

2. 財務管理

安全性の確保や職員の負担軽減のための人員増や派遣職員に頼らざるを得ない状況による人件費の増加に加え、逝去や他法人の生活施設への変更による利用者数減、それを補うための新規利用者が確保できていないこと、状態変化等により毎日の利用が難しい方の増加などによる利用率減、更に新型コロナの影響などの収入減要因が重なり、経営状況はさらに悪化。2022年度については積立金取り崩しにより人件費を補填せざるを得ない状況となりました。会議等により各事業所管理者間でも課題を共有し、人員配置の検討、派遣から直接雇用への切替、正職から非常勤への切替などによる人件費見直しにも一部取り組みましたが、大きな改善には至っていません。新規利用者募集も各事業所実施しましたが思うようには応募が無く、有効な改善策が打ち出せませんでした。

財務規律強化に向けては、公認会計士による助言や、会計事務所・本部による定期巡回により進めています。

3. 人材マネジメント

①人材確保

新卒採用については、マイナビ・リクナビ等の人材募集媒体の活用や兵庫県社会福祉協議会主催の就職フェアへの出展、個別のオンライン就職説明会、地域の学校訪問などの採用活動を行ってきました。2023年4月の入職に至ったのは5名でした。

法人ホームページは、より閲覧しやすい内容であるように広報に携わる職員が中心となって、内容の更新を行いました。引き続き、一羊会の活動が伝わりやすい内容となるように工夫していきます。

中途採用については、ハローワークやジョブメドレーに加えて、知名度が高いインディードも活用しました。また、人材が充足できていない状況を踏まえ、派遣職員の採用も継続して行いました。

参考：2022年度採用実績（新卒は2023年4月入職者）

新卒採用	女性4名・男性1名	計5名
中途採用	女性2名・男性1名	計3名
契約職員	女性10名・男性4名	計14名

②人材育成と定着

人材育成については、一羊会研修システムに基づいて、新任職員研修など各階層別に必要な研修を実施しました。新任職員研修については、各事業所のサービス管理責任者等のスキルアップにつなげる機会として、分担して講師を務めていくことができるように、法人テキストに基づいて研修内容の標準化を行いました。主任研修については、部長と課長で担当を決め、主任それぞれが事業所において主任業務を行っていく中で感じる課題や悩み事の解消などを目的としたディスカッション形式での研修を実施しています。また、部長と課長を対象とした管理職研修については、リーダーシップ研修や第6次マスタープラン策定までを意識した経営戦略に関わる内容の研修を外部講師に依頼し、実施しました。一般職員向けの研修は、研修部会が中心となって企画し、実施しました。

人材の定着については、研修を受講することでのスキルアップや風通しの良い職場環境づくりに関する研修を職員全体で受講するなど、法人全体での取り組みを実施していますが、離職率が高い現状があります。2022年度については、第6次マスタープラン策定に至る過程の中で管理職を中心に人材の定着に関しても現状の確認と課題の整理を行っており、労働環境の改善に向けて、年間公休数を増やすことや業務内容の見直しを進めるなど、職員が長く働きやすい環境の整備を進めていく必要性を確認しました。

参考：2022年度法人内研修実績

実施日	内容
4月9日	法人全体研修
5月23日	新任研修『知的障害・てんかんについて』
5月25日	2年目職員研修
5月26日	新任研修『ダウン症について』
6月2日	新任研修『自閉症について』
6月2日	全職員対象『精神科医療について』
6月9日	新任研修『ABA(応用行動分析)について』
6月13日	管理職対象『リーダーシップ研修』
6月15日	新任研修『権利擁護について』
6月20日	全職員対象『高齢者支援事例発表会』
11月18日	主任研修
11月30日	主任研修
12月3日	全職員対象『意思決定支援について』
12月9日	管理職対象『経営の基本と経営計画策定①』
12月16日	管理職対象『経営の基本と経営計画策定②』
12月20日	全職員対象『権利擁護について』
12月23日	主任研修
12月26日	主任研修
1月19日	リスクマネジメント研修
1月20日	全職員対象『権利擁護研修』
1月26日	主任研修
2月25日	全職員対象『モチベーションアップ研修』
3月9日	1年目研修

4. 事業展開

グループホームについては、高齢化や疾病などによって身体機能が低下し、既存のグループホームでの生活が困難になりつつある利用者が増えてきていることから、住環境の整備やバリアフリー環境の整った居住場面への転居などを進めていく必要があります。その為の方法として、元浜ホーム開設に向けた検討を行ってきました。2022年度中の開設には至りませんでした。2023年度上半旬に開設する段取りとなりました。

北部の土地の今後については、法人の経営状況から北部での新規事業を展開することが難しいことから、理事会や評議員会での承認を得て、売却に向けた手続きを進めていくこととなりました。

2021年4月に竣工したすずかけ作業所については、2022年度に10名の定員増を行いました。空き定員は5名でしたが、他事業所からの加齢による状態変化のあった利用者の受け入れを優先した結果、利用者1名の他事業所から契約変更にとどまりました。

5. 利用者支援サービス

①就労支援

行政への要望に関しては、9月13日に懇談の機会を設定いただき、近年の利用者の重度化・高齢化が急速に進んでいることによる作業ニーズの変化に伴い、今後も見据えて「しょうがいの程度・特性に合わせた作業内容の発注・調整」等の要望書を提出しました。

自主製品は、5月よりストアーズ（ネット販売）で菓子の販売を開始し、ホームページ・SNS等を活用して宣伝を行い、54件の注文をいただき約¥150,000の売り上げがありました。

就労継続支援事業B型の目標工賃（約¥30,000/月）達成に向けては、支援費区分が下がる事を優先して作業の調整を行いました。また、利用者の高齢化によるニーズ変化に伴い、就労継続支援事業B型から生活介護事業への利用契約の変更が加速していきます。今後、そのことを踏まえた作業確保、調整を事業の特色づくりと合わせて取り組んでいかなければなりません。

高工賃を目指す事業所の利用者確保については、すずかけ労働センターは1件の問い合わせ、上甲子園すずかけ作業所は6件の見学がありました。利用には至らず定員は充足されていないため、継続して募集を行っています。

②日中活動支援

利用者加齢によるニーズの混在の課題は継続していますが、各事業所での必要な日中活動を継続しました。しかし、各事業所だけで全てのニーズに対して必要な支援の提供ができていない部分もあります。自事業所で対応が難しい、身体機能の低下がある利用者には他事業所の理学療法士のアドバイスを受ける機会を設けるなど、他事業所との繋がりの中で支援を提供しました。

通所事業所でも利用者の加齢による状態変化で身体介助の割合が増えてきているので、今後は介護ロボットの導入を視野に入れて準備していく必要があることも見えてきました。

一方で、支援学校を卒業したばかりなどの若年代利用者への日中活動についても、ニーズを把握し必要な支援を提供することができるように進めていく必要もあり

ます。

③支援専門性の向上

支援力向上のために、研修部会・外部からのコンサルテーション・事業所内のOJTを中心に支援員の専門性向上を目標に行いました。

研修部会については、事業所からの代表者でメンバーを構成していたので現場が求めている研修テーマとして意思決定支援や働くモチベーションについてなどの選定に繋がりました。

2022年度もオンラインではありましたが、自閉症支援について外部よりスーパーバイザーを招聘し、質の高いコンサルテーションの機会は確保できました。また、その内容を自閉症ワークショップで報告することにより、支援のPDCAを有期限の中で進める事が出来ました。

④権利擁護・虐待防止

年間で2回行動規範評価を実施し、各事業所において集計結果を基に話し合いを持ち意識の向上につなげました。並行して12月に権利擁護部会オープン部会を実施し、強度行動しょうがいの方の身体拘束事例についてグループで討議し、身体拘束に関する意識を職員同士で共有する機会を持ちました。また、基本的な身体拘束に関する講義を行うことで、行動規範評価と同様に職員が自身の行動を振り返る機会としました。

虐待防止委員会を6/17、11/4、3/23に開催しました。行動規範評価の集計結果報告、各事業所における身体拘束事案の経過報告、職員に対する研修内容報告を行い意見交換しました。

⑤危機管理

各事業所で起こった事故報告を月に一度共有し交通違反や交通事故、除草の際の飛び石の事故について法人全体に向けて注意喚起を行いました。

月に一度各事業所で繰り返し起こっている他傷、服薬忘れ、異食について、要因分析を行い当該事業所で検討した再発防止策を共有しました。

アルコールチェックについて、検査の方法やチェックの書式を検討し、検知器導入の本格的な実施に向けて準備しましたが全面実施の時期が延長され全事業所の機器導入には至っていません。

車両事故の減少への取り組みとして、3月に安全運転講習を損保ジャパンに依頼し、実施しました。参加者に事故減少について考える機会として対面によるグループワークを行いました。

月に一度防災について検討する機会を持ちました。その結果、津波や火災の避難訓練は実施できていましたが、地震については義務ではないこともあり、実施できていない事業所が多く、2023年度への課題となりました。

新型コロナウイルス感染症のクラスターが起こった時、当該事業所へ職員を派遣したり、連絡を取り合い、請負作業を協力して実施しました。この経験をもとに次年度の感染症のBCP作成につなげていきます。

⑥アート活動の推進

「すずかけ絵画クラブ」では、毎月の制作活動を実施しました。

あとリエ活動では4月と2月に「すずかけの間」という個展を開催し、7月には夏の雑貨展を3年ぶりに開催しました。11月には「あとリエすずかけ展」をギャラリー「きりん舎」さんで開催しました。10月と12月にワー

クショップを開催し、地域との交流を図りました。
2022年度からはあとりえでの工賃分配方法を変更し、より個人の売り上げに応じた適正な工賃分配を行ないました。

あとりえ収益

収入	1,433,940円
支出	562,464円
工賃分配金額	871,476円

6. 地域連携・地域貢献

①障害児等療育支援事業

全体的に実施件数は微減となりました。県の予算額の15%減と担当者が現場兼務1名のみであることがその要因と考えられます。総合相談支援センターや計画相談事業者から依頼を受けて、重度訪問介護の利用にあたってご本人の状態像をアセスメントしたり、学校・園・施設、及び保護者から依頼を受けて、当該機関へ訪問し、従業者に対するしょうがい特性の理解に関する講義、発達に特性がある児・者に対応する際の留意点の助言、具体的な支援ツールの提案、実際にご本人の様子を観察したり関わったうえでの具体的な支援方法の提案などを行いました。また、地域の発達に特性がある子どもを育てる保護者に呼び掛けて茶話会を開催しました。下半期には心理職向けに大学教授を招いて心理検査の勉強会を開催しました。また、相談を受ける中で把握できた地域ニーズに即した内容で講演会を企画し、講演会の企画の一部に関しては法人内で組織する研修部会で企画開催するものを一般にも公開する形で実施しました。

2022年度実績 ()内は2021年度実績

- ・西宮市(訪問28(44)・外来67(19)・施設支援(研修会含む)122(127))
- ・尼崎市(訪問2(12)・外来0(0)・施設支援23(26))
- ・兵庫県(訪問2(6)・施設支援18(20))

なお、尼崎市は2023年度より本事業をたじかの園・三田谷治療教育院に集約する為、直接委託ではなくなります。事業は実施可能ですが、実施する場合は再委託の形式を取ります。兵庫県は予算が15%下がる予定です。

②広報活動

ホームページやSNS等で対外的な情報発信をする中で、法人のフェイスブックのフォロワー数が伸び悩んでいたため、8月に新たに法人のInstagramを始めました。

おもに自主製品の紹介をし、一部製品の注文につなげることができました。

法人のホームページにおいて新たに採用ページを立ち上げました。新卒者に限らず、興味がある方がスムーズに採用の流れに乗ることができるようエントリーフォームから申し込みをする仕様を適用するとともに、職員紹介動画やインタビュー記事を充実させました。

③実践発表会の開催

12月5日(月)にオンラインで開催しました。市政ニュース掲載や関係団体への案内、ホームページでの掲載等の広報活動を幅広く行い、53名の方に参加いただきました。

アンケートでは、今回のテーマである「高齢化対応」について、「内容がよくわかりました」「参考になりました」「情報共有や意見交換がしたいです」との回答をいただきました。発表した職員にとっても自分たちの日頃の実践を伝える重要な機会となりました。

④地域イベントへの参加

コロナ禍においては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、多くのイベントへの参加を控えましたが、2022年度はその時々々の感染状況を鑑み、感染対策を講じたうえで学園祭や販売会等を含むイベントに18回参加しました。

大きな販売会の一つである十日戎販売についても、2021年度同様に時間短縮等の感染対策を講じて行いました。

⑤地域貢献

下記の各会合及び団体との連携をとり、障害分野だけではなく、児童・高齢分野も含めたネットワークの構築を進めています。一羊会として役員を出している西宮市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんねっと西宮)では、より多くの団体の参加につながるように、『防災』や『人材確保・育成』などの既存のテーマだけではなく、『ヤングケアラー』など地域課題として関心が高い内容も検討テーマに加えて活動を行いました。

また、大学や専門学校からの依頼を受けて、社会福祉士資格等を取得する為の実習生の受け入れは継続して行い、人材の育成に貢献しております。2022年度は、これまで受け入れ実績のない大学からも問い合わせがきており、学校とのネットワーク作りにもつながっています。

<参加及び連携している団体>

市内	市外
西宮市障害福祉計画策定委員会	兵庫県知的障害者施設協会
西宮市障害者施策推進懇談会	近畿地区知的障害者施設協会
西宮市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんねっと西宮)	きょうされん兵庫支部
自立支援協議会運営委員会、事務局会議、各部会	兵庫県社会就労センター
ジョブステーション西宮	近畿社会就労センター
西宮ふれあいネットワーク	NPO法人兵庫セルフセンター
西宮市児童通所支援事業所連絡会	
西宮商工会議所	
西宮青年会議所	
西宮市社会福祉協議会	
西宮市手をつなぐ育成会	

2022年度 法人単位資金収支計算書

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

(単位：円)

Table with 5 columns: 勘定科目, 予算(A), 決算(B), 差異(A)-(B), 備考. Rows include 事業活動による収支, 施設整備等による収支, and other activities.

注 予備費は、事務費に137,364円、その他の支出に121,553円、計258,917円を流用

2022年度 法人単位事業活動計算書

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

(単位：円)

Table with 5 columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). Rows include サービス活動増減の部, サービス活動外増減の部, 特別増減の部, and 繰越活動増減差額の部.

法人単位貸借対照表

2023年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	362,538,800	343,483,110	19,055,690	流動負債	96,454,086	104,272,171	- 7,818,085
現金預金	113,548,130	112,520,816	1,027,314	事業未払金	46,939,015	49,857,887	- 2,918,872
事業未収金	217,327,589	204,713,055	12,614,534	その他の未払金	0	2,970,990	- 2,970,990
未収補助金	9,002,456	6,134,100	2,868,356	1年以内返済予定設備資金借入金	6,072,000	6,072,000	0
貯蔵品	7,258	7,188	70	未払費用	497,963	803,372	- 305,409
商品・製品	744,201	953,385	- 209,184	預り金	3,113,208	3,030,422	82,786
仕掛品	173,068	201,116	- 28,048	職員預り金	1,731,900	130,000	1,601,900
原材料	2,710,021	2,271,012	439,009	仮受金	0	0	0
立替金	1,060,363	607,603	452,760	賞与引当金	38,100,000	41,407,500	- 3,307,500
前払金	10,265,197	10,529,102	- 263,905	固定負債	265,200,761	266,639,272	- 1,438,511
1年内長期前払費用	336,960	336,960	0	設備資金借入金	115,237,000	121,309,000	- 6,072,000
仮払金	213,957	159,173	54,784	リース債務	7,855,604	11,273,924	- 3,418,320
仮払消費税等	7,149,600	5,049,600	2,100,000	退職給付引当金	142,108,157	134,056,348	8,051,809
固定資産	2,160,342,762	2,280,802,119	- 120,459,357	負債の部合計	361,654,847	370,911,443	- 9,256,596
基本財産	1,495,845,078	1,569,312,044	- 73,466,966	純資産の部			
土地	307,703,100	307,703,100	0	基本金	267,316,507	267,316,507	0
建物	1,188,141,978	1,261,608,944	- 73,466,966	国庫補助金等特別積立金	558,670,008	599,827,001	- 41,156,993
その他の固定資産	664,497,684	711,490,075	- 46,992,391	その他の積立金	357,304,000	402,394,000	- 45,090,000
土地	31,725	31,725	0	施設整備等積立金	202,580,000	249,500,000	- 46,920,000
建物	59,273,186	47,708,809	11,564,377	修繕積立金	59,600,000	60,900,000	- 1,300,000
構築物	61,786,351	63,032,520	- 1,246,169	備品等購入積立金	31,500,000	31,500,000	0
機械及び装置	190,613	351,950	- 161,337	工賃変動積立金	27,485,000	24,355,000	3,130,000
車輪運搬具	3,042,255	891,140	2,151,115	設備等整備積立金	36,139,000	36,139,000	0
器具及び備品	42,611,946	52,851,447	- 10,239,501	次期繰越活動増減差額	977,936,200	983,836,278	- 5,900,078
建設仮勘定	0	2,970,990	- 2,970,990	(うち当期活動増減差額)	-50,990,078	- 79,707,133	28,717,055
有形リース資産	2,816,880	5,229,648	- 2,412,768	純資産の部合計	2,161,226,715	2,253,373,786	- 92,147,071
権利	4,626,493	5,321,996	- 695,503	負債及び純資産の部合計	2,522,881,562	2,624,285,229	- 101,403,667
ソフトウェア	5,778,685	7,286,172	- 1,507,487				
退職給付引当資産	105,637,070	101,484,238	4,152,832				
差入保証金	21,230,000	21,430,000	- 200,000				
長期前払費用	168,480	505,440	- 336,960				
施設整備等積立資産	202,580,000	249,500,000	- 46,920,000				
工賃変動積立資産	27,485,000	24,355,000	3,130,000				
設備等整備積立資産	36,139,000	36,139,000	0				
修繕積立資産	59,600,000	60,900,000	- 1,300,000				
備品積立資産	31,500,000	31,500,000	0				
資産の部合計	2,522,881,562	2,624,285,229	- 101,403,667				

法人・事業所御寄付の報告(敬称略・順不同)

2023年4月1日~2023年6月30日

- *法人 松枝千尋(2件) 三浦昇 3件
- *一羊会 森野和雄 1件
- *すずかけ労働センター 西宮グリーン(株) 1件
- *武庫川すずかけ作業所 塩口正之 平野弘子(3件) 武庫川すずかけ作業所保護者会 5件
- *ジョイント 藪亀まゆみ 匿名 2件

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2023年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)

(2023年4月1日~2023年7月31日までのご入金分を掲載)

- *法人・団体の部 (宗)圓満寺(2口)、大関(株)、大関エステート(株)、(株)ケージークレセント(2口)、(株)巨勢工務店、中澤総業(株)、西宮市民踊協会、(一社)西宮市薬剤師会、阪神園芸(株)(2口)、(株)前中地所、三日月建設(株)、(株)メックテクニカ、レンマ(株)、社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所、すずかけ作業所保護者会(5口) 15件
- *個人の部 青木純子、伊藤節子、井上尚子、岩本健照、大西勝代、大前繁雄、大前はるよ、大目修平、大山美紀子、岡克明、奥嶋育子、神結慶子、川上隆弘、北川泰寿、車田光子、佐々木康晴、塩谷健介、四方勝、篠原正寛、清水栄子(5口)、千翔有峰、善塔勝一郎、高木博敏、高谷知子(3口)、田中京子、田中美英子、谷田松子、谷矢吉夫、中川寛子、中島忠男、中田祥貴、中村絢子、西田智子、橋本真理、長谷川幸、長谷隆行、早川典江、日高昭夫、福田百合子、古川勝(2口)、堀江史子、本田洋子、松枝千尋、三浦昇、三上展、宮崎龍雄、宮脇葉子、森野和雄、矢萩祐子、山口有香、山本加津美、横山潤・正代、吉田幾久世、吉野千栄子、すずかけ第2作業所保護者会(47口)、武庫川すずかけ作業所保護者会(54口) 56件

2023年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)

(2023年4月1日~2023年7月31日のご入金分を掲載)

- *法人・団体の部 社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所、(株)ジーホワイト、(株)ビー・プランニング 3件
- *個人の部 岩本健照、大目修平、神結慶子、川上隆弘、堺執、佐々木康晴、善塔勝一郎、高木博敏、谷矢吉夫、中川寛子、中村絢子、橋本真理、長谷隆行、早川典江、本田洋子、宮崎龍雄、森野和雄、矢萩祐子、山本加津美、吉田幾久世、万竝建二 21件

口座名義 一羊会後援会 【銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061 【郵便振替口座】01190-8-66322

※受領証については、払込取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。別途受領証が必要な場合はお知らせください。
 ※現金振込時の手数料について、振込手数料は後援会負担としておりますが、現金でお支払いの場合は別途110円の手数料がかかります。誠に恐縮ではございますが、何卒よろしくお願いたします。(ゆうちょ銀行の通帳やカードでのお支払い時には手数料はかかりません)



2023年度総会のご報告

会長 太田 博

いつも後援会活動にご協力いただきありがとうございます。コロナ感染も2類から5類へと移行し社会的活動も活性化してきている状況で、今回は久しぶりに対面での総会を開催する事としました。本来ならもう少し早い時期に開催するのが良いのですが、以前のようなスタッフ体制が整っておらず結局7月18日(火)の開催となりました。暑い中ご出席いただいた会員の皆様ありがとうございました。

当日の参加は30名と少ない出席でしたが総会としては成立し、議案についてすべて承認されました。

議案終了後、「一羊会の現状について」の口頭での報告がありました。

以下、総会の概要報告を致します。

<2022年度事業報告概要>

事務局体制は、昨年同様厳しい状況でしたが、例年通りカレンダー販売を実施し、十日戎募金に代わり一昨年度スタートした募金箱の設置については一羊会事業所をはじめ、協力会社、団体等22か所に設置いただき、少しずつですが募金額の実績も上がっています。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

<2023年度役員体制について>

今回の総会は役員改選の時期にあたりましたが、(一社)西宮青年会議所の理事長が第72代理事長吉井竜二氏から第73代理事長の山下侑士氏に代わられましたので同氏に理事として就任していただけることになりました。私をはじめ他の役員の皆様には引き続き取り組んでいただけることになりました。

<2023年度事業計画概要>

事務局体制の安定化に向けて引き続き取り組むと共に、会員の維持拡大を計画の柱とし、新しく作成した募金箱の設置、募金の回収方法等、実情をみながら具体的な動きを進めてまいります。

カレンダー販売にも例年通り取り組みます。また、後援会独自の販売事業はできないので一羊会の販売等の事業に協力できる形を考えて取り組みます。引き続きご協力の程よろしくお願い致します。

2023年度 後援会役員一覧

(任期：2023年7月18日～2025年 総会開催時迄)

(敬称略)

役職名	氏名	現在の役職等
会長	太田 博	(株)GEOソリューションズ 会長
副会長	三浦 昇	(社福)一羊会 理事長
副会長	本田 洋子	(一社)西宮市手をつなぐ育成会 会長
理事	北本 宝	中澤総業(株) 会長
(新)理事	山下 侑士	(一社)西宮青年会議所 第73代理事長
理事	泉 明子	(一社)西宮市手をつなぐ育成会 副会長
監事	長谷 隆行	長谷隆行公認会計士・税理士事務所 代表
監事	梅谷 正子	(一社)西宮市手をつなぐ育成会 副会長

<一羊会の現状と課題 報告>

一羊会の古川理事による「一羊会の現状について」(第6次マスタープランの開始にあたって)のテーマで30分ほど話がありました。質疑応答も含めて、現在の厳しい状況の一羊会から、今後の夢を語れる一羊会を目指す旨の説明がありました。

私としては、近いうちに、後援会役員と一羊会役員、手をつなぐ育成会役員の方々と今後について話し合いを持ちたいと考えています。



2022年度収支決算

貸借対照表

2023年3月31日現在

単位：円

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
普通預金 三井住友銀行	616,545	未払金	一羊会へ寄付
ゆうちょ銀行	444,025		
ゆうちょ銀行 振替口座	907,985		
現金	62,673	当期繰越金	531,228
資産合計	2,031,228	負債・純資産合計	2,031,228

収支計算書

自2022年4月1日 至2023年3月31日

収入の部

単位：円

科目	予算	決算	増減	内訳
会費寄付金収入	1,600,000	1,722,450	122,450	
会費	800,000	695,000	△105,000	
寄付金	800,000	1,027,450	227,450	
事業収入	650,000	466,374	△183,626	
募金事業	200,000	80,144	△119,856	募金箱
販売事業	450,000	386,230	△63,770	カレンダー販売
雑収入	10	5	△5	受取利息他
前年度繰越金	216,640	216,640	0	
収入合計	2,466,650	2,405,469	△61,181	

支出の部

単位：円

科目	予算	決算	増減	内訳
事務費	112,000	110,131	△1,869	
通信費	60,000	75,737	15,737	郵送料、切手代、年賀状代
振替手数料	30,000	22,157	△7,843	会費等振替手数料
印刷費	15,000	7,150	△7,850	振替用紙・受領証印刷費
会議費	1,000	1,750	750	会議室使用料
消耗品費	1,000	0	△1,000	お茶等
雑費	5,000	3,337	△1,663	振込手数料、残高証明他
事業活動経費	300,000	264,110	△35,890	カレンダー仕入代金等
寄付金支出	1,500,000	1,500,000	0	一羊会へ寄付
委託料	0	0	0	
小計	1,912,000	1,874,241	△37,759	
当期収支差額	554,650	531,228	△23,422	
支出合計	2,466,650	2,405,469	△61,181	

2023年度 予算

自2023年4月1日 至2024年3月31日

収入の部

単位：円

科目	前年度決算額	本年度予算額	増減	内訳
会費・寄付金収入	1,722,450	1,300,000	△422,450	
会費	695,000	700,000	5,000	
寄付金	1,027,450	600,000	△427,450	
事業収入	466,374	500,000	33,626	
募金事業	80,144	100,000	19,856	募金箱収入
販売事業	386,230	400,000	13,770	カレンダー販売収入
雑収入	5	10	5	預金利息等
前年度繰越金	216,640	531,228	314,588	
収入合計	2,405,469	2,331,238	△74,231	

支出の部

単位：円

科目	前年度決算額	本年度予算額	増減	内訳
事務費支出	110,131	128,000	17,869	
通信費	75,737	80,000	4,263	郵送料、切手代、年賀状代
振替手数料	22,157	30,000	7,843	会費等振替手数料
印刷費	7,150	10,000	2,850	振替用紙印刷費
会議費	1,750	2,000	250	会議室使用料
消耗品費	0	1,000	1,000	お茶等
雑費	3,337	5,000	1,663	振込手数料、残高証明等
事業活動経費	264,110	300,000	35,890	カレンダー仕入代金、募金活動諸経費等
寄付金支出	1,500,000	1,700,000	200,000	一羊会へ寄付
小計	1,874,241	2,128,000	253,759	
当期収支差額	531,228	203,238	△327,990	
支出合計	2,405,469	2,331,238	△74,231	



Boleh!

Boleh(ボレ)はマレーシア語で「できる」を意味します。
このページでは地域共生をテーマとし、一羊会と地域の皆様方との繋がりをお伝えしていきます。

すずかけイチバ上甲子園

2023年7月15日に上甲子園すずかけ作業所でイベント『すずかけイチバ上甲子園』が開催されました。コロナ禍を挟み、同作業所でのイベント開催は実に4年ぶりとなりました。今回のイベントのコンセプトは“地域の皆さんと一緒にイベントを作り上げる”ということ。事前にSNSで出展者を募集したり、直接お声をかけをしたりして、イベント参加者を募りました。当日は、カフェのキッチンカーに駄菓子屋さん、新鮮野菜の販売、レジアートやポーリングアートのワークショップまで、多種多様なお店が軒を連ね、イベントを大いに盛り上げてくれました。ご来場、ご参加くださった皆様、ありがとうございました。



『warna-warni coffee』と屋号の入ったキッチンカーでカフェを出してくれたのは元一羊会職員の神田知美さん。なんとこの日が記念すべきキッチンカーデビューの日だったそうです。「めっちゃ緊張してます」と笑いながら、自家焙煎した豆で作ったオリジナルブレンドの美味しいコーヒーを淹れてくれました。

野菜を販売してくれたのは、西宮市山口町にある農地で小学生に農業体験活動を提供している『なるなるファーム』を運営する穴戸さん(左)と末吉さん(右)。「収穫時に子ども達が喜んでくれる様に、大きく育つ野菜の種を選んで育てています」と話す通り、販売された採れたての野菜はどれも驚きのビッグサイズ。野菜を選ぶお客さん達も楽しそうでした。



【NPO法人にしのみや次世代育成支援協会 Nobars】さんが出店して下さった「ぶちだがしやさん」の駄菓子は子ども達に大人気でした。来場していたすずかけ労働センターや上甲子園ホームの利用者さんも、嬉しそうに駄菓子を選んでいました。助っ人として店番を手伝っていた利用者の難波良太さんは、優しい笑顔と語り口で素敵な接客をされていました。

工房では、クッキー作りのワークショップが開かれました。普段、工房で働く利用者さん達も参加し、子ども達と一緒にクッキーを作りました。参加者の中には、4年前にも開かれた同ワークショップに参加し、今回は妹さんを連れて参加してくれたという方も。試行錯誤しながら、クッキーの型抜きをする皆さんの真剣な表情がとても印象的でした。

